

平成28年度

# 事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

ウィング居宅介護支援事業所



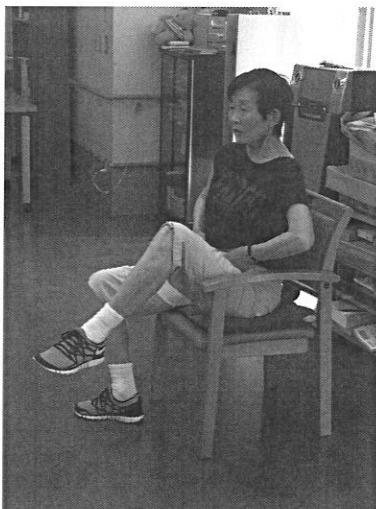
## (2) 事業実績について

利用者の平均介護度は27年度の4.21に対し、28年度は4.34とやや高くなっている。

(別表2 参照) 平均介護度が上がっている理由として、利用者の在住期間が延びていることや、新規利用者においては、医療的ニーズ等を含め、重度者の受入れが主となっていることが挙げられる。特養での対策としては、適切な健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに、利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることである。

そのため、①健康管理の徹底 ②衛生管理の徹底 ③日常生活での異常に対する早期発見、早期対応の徹底があげられる。28年度においてもインフルエンザやノロウイルスの流行に備え、空気除菌清浄機の活用、居室トイレの除菌用ウォシュレット、居室等への除菌剤の配置などを強化した。感染症の発生については、インフルエンザを発症した利用者が2名いたが、早期受診対応により拡大することなく短期間で終息することができた。

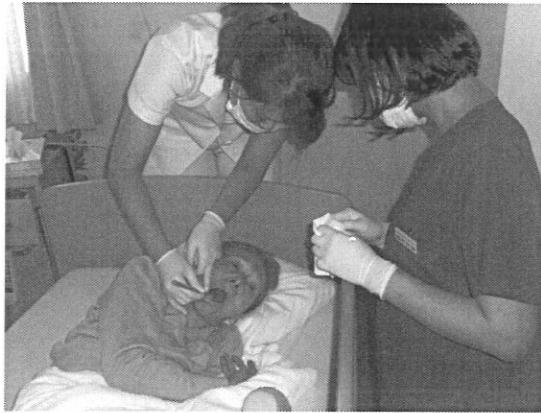
また、本年度も利用者の心身の健康管理の層を厚くした。嘱託医による身体の定期的な健康管理に加え、精神科医による精神面のケア、リハビリ医による機能面の維持・向上への取組み、口腔においては、歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持に取組んだ。利用者の嚥下においては、緩やかな低下が見られており、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力した。



チエアピクス  
尿漏れ予防体操



言語聴覚士による  
言語リハビリ



千葉歯科訪問診療  
定期的な口腔ケア



有資格介護職による  
喀痰吸引

### (3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組んだ。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動、各種の行事やボランティア、インターンシップの積極的な受け入れを行い、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努力した。本年度もボランティア、インターンシップとの交流機会を多くもち、普段接することの少ない若年層との世代間交流を通して、利用者の感性に温かい刺激を与えるものとなった。

レクリエーションでは、セラピードッグ、音楽療法、書道、そろばん、チェアビクス、健康吹き矢等々、心身機能の活性化に重点を置いたプログラムの活動に意欲的に取り組んできた。更に本年度は、コミュニケーションロボットを導入し、利用者との触れ合いの時間を新たに設けた。コミュニケーションロボットとの触れ合いは、利用者にセラピー的効果をもたらし、精神的ケアに大変有効であった。また、コミュニケーションロボットを介して、利用者間の交流が多くなり、会話が増えたこと、食堂で過ごす時間が増えたことは、利用者の生活の質を向上させ、認知症の進行を防ぐ上でも効果を見せている。コミュニケーションロボットについては、利用者の精神的ケア、不活発な生活予防、認知症予防等、様々な活用が可能であり、今後ますます期待が持てる。

リハビリテーションは、リハビリ医の指導のもと、機能訓練担当の看護師、介護職、理学療法士、言語聴覚士、栄養士との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することができた。「利用者の自己実現を日々の生活に活かしてゆく」を目標とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個

別性を尊重した、きめ細やかなりハビリに取組んだ。



アザラシ型ロボット・パロとの  
スキンシップ



イヌ型ロボット・aiboとの  
触れ合い

## 2. 短期入所生活介護

### (1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的利用しやすい状況であった。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供している。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげている。

周囲の経営環境としては、区立特養「マイホームはるみ」「マイホーム新川」、区立の老健施設の6ヶ月長期利用、ユニット型特養「晴海苑」、そして平成25年11月開設した地域密着型特養「ケアサポートセンターやしま」、平成26年9月開設「ケアサポートセンター十思」、本年度は「マイホームはるみ」の20床増設等、年々経営環境は厳しい状況になってきている。一方、本年度の特徴として2ヶ月前の申込みが激減していることが挙げられる。ショートステイの申込みは通常2ヶ月前を基本としているが、この申込み状況が、これまでと様変わりしていることが顕著に伺える。2ヶ月前の申込みでは、これまでの実績の半数くらいだが、1ヶ月前くらいから徐々に増え続けてゆく傾向である。理由としては、家族の生活スタイルの変化・ニーズの多様化により「2ヶ月前の申込み」という、決められた枠にはまらない家族のニーズが増えてきたことである。別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は前年度に対して、28年度は100.42%と約3.27%の減少となっている。ショートステイ単独で



出た時にすぐ利用できるような連絡体制の確立と情報の提供を徹底していくことが必要である。また、空床を速やかに埋めるということが厳しい状況となってきている理由として

①周辺環境の変化によるところが大きい。区立特養「マイホームはるみ」の20床増設を始め、地域密着型特養、ショートステイ専門施設、更に隣接区においては、新設の老健、特養の開設等、競争激化の状況である。

②本年度の特徴として、2ヶ月前の申込みでは例年の半数くらいであったが、家族の仕事や、介護者の入院、利用者の認知症進行による家族のストレス等の理由による緊急ショートのニーズが大変多くあった。また、2ヶ月前では予定が立たない、という理由で申込みを控えていた家族も多く、1ヶ月前くらいから、徐々に申込みが増えてきた。在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきており、これらのニーズに対応できるだけの体制が必要である。引き続き2ヶ月前の申込みを行いつつ、並行して緊急ショート、医療的ニーズ等に対応してゆくことが、今後の課題と言える。

いずれにしても、一人ひとりの状況にあわせたきめ細かいケアを行えるように、個々のニーズの把握に務めること、今後もまた利用したいと思えるような魅力あるサービスを提供すべく、サービスの質の向上に務めることが急務である。

### 3. 通所介護

#### (1) 利用者の状況

23年度はデイサービス見通し編成の年度でもあった。22年より、23年度にかけて利用者数の落ち込みが著しくみられた。その要因として、利用者のデイサービスへのニーズが、リハビリへと変わっていったことがあげられる。従来型のデイサービスからリハビリ型のデイサービスへと、利用者の意識の変化も顕著であり、家族もまた「リハビリのできるデイサービス」への期待を大きくした。

「新とみ」ではこうした利用者、家族のニーズを受け、23年4月より理学療法士を配置し、毎曜日利用者が個別にリハビリを受けられる体制を整えた。外部的には居宅介護支援事業所等にリハビリの案内チラシを配布、またデイサービス見学者、体験利用者を積極的に受け入れ、リハビリ体験を試みた。こうした外部へのはたらきかけが功を奏し、利用者は徐々に増えていった。本年度もリハビリを目的とした利用者が半数以上を占めている状況である。しかしながら、一時期の利用者増加の様相は見られず、リハビリを目的とした利用においては一巡化した感がある。周辺環境はリハビリデイと言われるリハビリ専門のデイサービスが増加し、数年来競争激化の状況となっている。食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、夕食サービスの利用者が多くいたが、特に夕食サービスのニーズが増え、多い日は7~8名の夕食サービス利用者の対応を行っている。



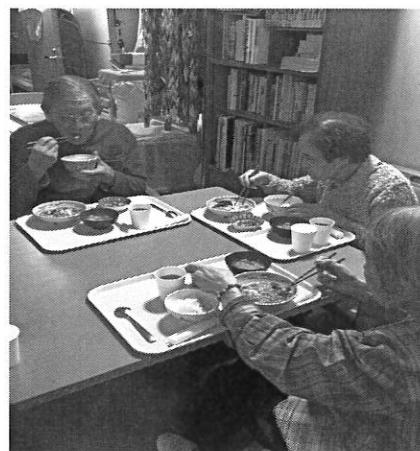
ための活動は継続中である。22年度から始まった朝食サービスは、本年度も利用者や家族、ケアマネジャーから好評を得ている。特に独居の高齢者の生活を支えるひと役として、食事サービスは欠かせないものとなっている。前年度より始めた夕食サービスも引き続き実施しており、本年度は夕食サービスの利用者が増えている。夕食後、午後7時過ぎに送迎車で利用者を自宅まで送り届ける。朝食サービスから、夕食サービスまで、これらのサービス利用により、家族の負担軽減、且つ、在宅での生活維持を可能にしているといえる。

表4 朝食サービス・持帰り弁当・夕食サービス利用人数  
平成28年4月1日～平成29年3月末

項目	利用人数	延数
朝食サービス	118	1,089
1ヶ月平均	9.83	90.75
持帰り弁当	238	2,310
1ヶ月平均	19.83	192.5
配食サービス	12	127
1ヶ月平均	1.00	10.58
夕食サービス	96	779
1ヶ月平均	8.00	64.92



朝食サービス  
食事風景



夕食サービス  
食事風景

また、送迎においては、階段昇降機(スカラモービル)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることことができた。歩行困難なため、階段昇降がネックとなって外出ができなかつた利用者を、デイサービス利用に繋げることができたことは、利用者の自己実現のひとつとして大きな成果であった。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎

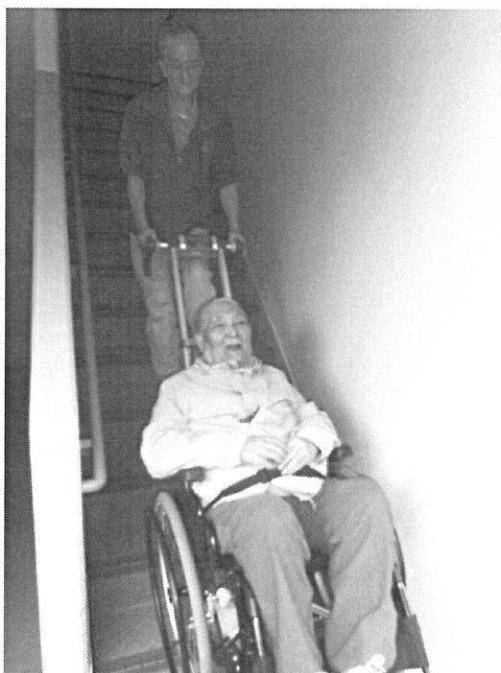
日2名～4名の利用者の昇降を行っている。

リハビリにおいては、周辺のリハビリ専門デイサービスの増加により、年々競争激化の様相であり、特色ある、きめ細やかなリハビリが求められる。

日々のプログラムは、音楽療法、セラピードック、書道、朗読、ファンションショー、そろばん教室、介護予防運動、健康吹き矢、アロマセラピー、詩吟教室等、地域や企業のボランティアの支援のもと息長く継続されている。前年度より取り入れた健康吹き矢は、ボランティアによる指導のもと、特養、デイ合同のレクである。呼吸法等、心身機能のリハビリに大変効果をあげている。また、本年度もペッパー、パルロとのレクリエーションの時間を多く持ち、認知症予防等に活用した。介護予防体操、歌、ゲーム等のレクを通して、ロボットと利用者とのユニークなコミュニケーションを図っている。この様子はイギリスのタイムズ紙、韓国の東亜日報等にも掲載された。



スカラモービル  
コンパクトタイプ



スカラモービル  
車イスタイプ

バスハイクは、日頃外出する機会の少ない利用者に好評を博している外出レクである。お花見、紅葉狩りの他、毎回利用者の希望を取り入れた場所を企画し、感性豊かな時間を創るよう努めている。

「日々、感動を届ける」これが目標である。デイサービスで過ごす時間にひとつでも多くの感動を利用者に届けることができるよう、今後も目標としてゆきたい。

平成20年11月にスタートした「若年認知症デイサービス」は、「練馬若年認知症サポートセンター」へ活動の拠点を移行した。本年度も新とみデイサービスと連携





日本橋演芸会・獅子舞



日本橋演芸会・南京玉すだれ



お花見



ボランティア  
東京グレースシティチャーチのみなさん

## ②ボランティア、実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをした。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、詩吟ボランティア、傾聴ボランティア等が年12回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれている。特養においても、毎週水曜日に洗濯物整理のボランティアをはじめ、地域の多くの方々の協力、支援を受けている。

実習生は、介護職員初任者研修、介護福祉士取得に向けた実習生、教員免許取得実習生を多く受け入れた。本年度も、インターンシップ、大学生ボランティア、イナッコ教室ボランティア(夏休み社会体験)等を積極的に受け入れた。実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れる事の少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに大変良質な刺激をもたらせる結果となり、今後も積極的に受け入れてゆく方向である。











また、訪問サービスの他、当事業所のデイサービス、ショートステイも利用している利用者は7名である。地域のニーズとして、訪問・デイサービス・ショートステイと、トータルなサービスの構築を図ることが重要である。

今後、時代のニーズに対応できるだけの体制を整え、研修を始めとした教育の充実を図り、質の高いサービスの提供をめざしてゆく。

## ウイング居宅介護支援事業所

### はじめに

平成28年9月1日、新とみ併設として「ウイング居宅介護支援事業所」を開設した。本年度は、京橋おとしより相談センター、月島おとしより相談センター等を主に営業活動を行った。更に「出張（無料）介護相談会」を開催し、地域の相談ニーズの掘り起こしを図った。

#### 1. 出張（無料）介護相談会

- ①日 時 平成28年12月10日（土）10：30～15：00
- ②場 所 築地永谷コー ポラス 貸教室
- ③趣 旨 介護保険サービス、及び相談ニーズがあるにも関わらず、外部との接触機会が少なく、情報入手が困難により円滑なサービス利用ができない方々のために、専門の職員が集合住宅の集会所等に出張して、相談業務を行い、円滑にサービスが受けられるように支援する。

今後の計画として、定期的に相談会を予定している。

- 2. 平成29年4月 新宿区・戸山ハイツ
- 3. 平成29年5月 新宿区・戸山ハイツ
- 4. 平成29年5月 中央区・勝どき6丁目住宅







